

令和4年度(令和3年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

市民経済部観光課

市民経済部長 大山 仁志

整理No	主要事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
14-1	知多半島広域観光 推進事業	なし	D	<p>コロナ禍の影響に伴い、観光入込客数は目標値を大きく下回ったが、教育旅行冊子への特集掲載や食の情報に特化したWEBページの作成、観光体験リーフレットの作成等、ウィズコロナ、アフターコロナを意識した情報発信を行った。</p> <p>また、スタンプラリーアプリ「ちたんぷ」を継続運用し、一極集中を避けた観光スポット・飲食店等への誘客と地域内の回遊性向上を図った。</p> <p>愛知県が進める常滑港でのクルーズ船誘致に参画し、初寄港船を受け入れるとともに、地域内のオプションツアーの造成に協力する等、新たな観光需要の掘り起こしを図ることができた。</p>	改善 推進	<p>広域観光における、スケールメリットによるPR効果や観光資源の組み合わせの相乗効果を活かし、新たな地域の魅力創出やアピール度の向上を図る。</p> <p>令和4年度は、ジブリパークが開園することに合わせて、ジブリ作品の世界観に通じる知多半島のおもしろふしぎコンテンツを協議会ホームページで紹介し、知多半島の魅力の発信と来訪者の増加を図る。</p> <p>また、東京都庁や愛知県国際展示場等でPR出展し、域外の方々へのPRと認知度の向上を図る。</p>
14-2	観光振興事業	あり	D	<p>令和2年度から続く新型コロナウイルスの影響により、「ごんの秋まつり」「すしイベント」等のイベント中止や一部の観光施設の休館が続いており、観光入込客数は、目標値を大きく下回った。そうした状況の中でも、イベントに頼らない、日常的なにぎわいの創出を目指し、いいかも半田キャンペーンの通年での実施、まち歩きを意識した半田市観光パンフレットの作成のほか、物産品等オンライン販売促進事業等、ウィズコロナに即した事業を実施することができた。</p>	改善 推進	<p>大規模な集客イベントについては、密を回避するなどの感染対策を講じた上で開催していく。また、イベントのSNS広告の活用やめぐりんマップのデジタル化等、デジタルによる誘客や回遊性の向上をさらに強化していく。他方、国がコロナ対策として公募する各種観光振興関係の実証事業に、観光協会と協働して応募し、新たな観光需要の掘り起こしに取り組んでいく。</p>
14-3	半田市観光協会支 援事業	あり	D	<p>観光関連広報誌への情報提供やホームページ・SNSによる情報発信、観光案内やレンタサイクルの運用による来訪者のおもてなし等、観光振興のフロント業務を補助金により支援・実施したが、コロナ禍の影響は大きく、年間観光入込客数は目標値を大きく下回った。</p>	改善 推進	<p>デジタル社会の進展を踏まえ、ホームページ・SNSを始めとするデジタルによる観光情報発信や回遊性向上施策を強化するとともに、メディアを活用したPRを継続して実施することにより、さらなる誘客と消費の促進を図っていく。</p>
14-4	半田運河活性化推 進事業	あり	D	<p>令和2年度から続く新型コロナウイルスの影響により、半田運河Canal Nightなどの大型集客イベント中止や一部の観光施設の休館が続いており、半田運河周辺観光入込客数は目標値を大きく下回った。こうした状況の中でも適切な感染対策を行いながら、萬三の白モッコウバラ祭・半田運河HOTORI brunch・どぶろくまつりなどのイベントを開催し、できる限りの運河周辺の魅力の発信と楽しさを提供した。</p>	改善 推進	<p>半田運河Canal Nightについては、密を回避するなどの感染対策を講じた上で開催に向けた準備を進めている。また、ミツカンミュージアムなどの観光施設の集客力を活かしながら、半田運河周辺のさらなる回遊促進を図るため、プロモーションチラシを作成し、日常的なにぎわいの創出を図る。他方、中期的視点において、半田運河周辺での観光客の立ち寄り先となる施設の誘致についても構想していく。</p>

整理No	主要事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
14-5	半田赤レンガ建物管理運営事業	なし	D	新型コロナウイルス感染症の影響による人の移動の自粛や、カプトビールフェスタ、ドイツフェスティバル等の集客力のある大型イベントが実施できなかったことにより、年間来場者数は目標値を大きく下回った。一方で、全国的に知名度の高い展示会（MT展）を誘致できたことや、カプトビール広告塔完成記念イベントにおける記念式典の実施やジブリ作品「風立ちぬ」にも登場した「シベリア」の販売により、赤レンガ建物の魅力を発信することができた。	改善 推進	集客力のある展示会の誘致とともに、アフターコロナに向けて、団体客の増加を見据えた旅行者等への営業を進めていく。また、赤レンガBBQでは、グランピングをオプションとして加えていき、赤レンガ建物の魅力が伝わる体験を提供していく。また、大型イベントについては、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、計画通りの開催を目指していく。
14-6	半田赤レンガ建物通路天井改修事業	あり	A	工事の施工方法について、設計段階から安全性、コスト面、文化財価値の保全、その後の管理への影響等を比較する中で、最善の方法を検討し、当初の予定よりも安価で目付安全性を確保できる施工方法を選択できた。また、工事の施工時間について、半田赤レンガ建物の管理運営に影響が少なくなるよう展示室閉館後の時間を使って工事施工することとし、来館者に影響が出ないよう配慮することができた。	終了	工事完了により事業終了。
課等長	1次評価（令和3年度の総括評価）					
D	新型コロナウイルス感染症の影響により、全国的な人の移動の自粛とともに、一部の市内観光施設における臨時休館やイベントの中止を余儀なくされたため、年観光入込客数は目標値を大きく下回った。その一方で、コロナ禍においても感染対策を実施したうえで、萬三の白モッコウバラ祭や半田運河HOTORI brunch等のイベント開催による誘客とともに、いかも半田キャンペーンの通年実施や半田めぐりんMAP等による、ウィズコロナに対応した日常的な誘客と回遊の促進を図った。また、観光関係事業者への緊急支援策として、貸切バス事業者への支援金交付と、観光土産品等の物産品オンライン販売サイトを開設し、事業者の経営安定化と物産品の販路拡大につなげることができた。					
部等長	2次評価（令和3年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）					
D	新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中においても、半田めぐりんMAP等による回遊性の向上や半田市観光ガイドの更新による情報発信の強化を図った。また、半田赤レンガ建物においては、新たにカプトビール広告塔を再現設置し、今後のプロモーションにおけるPRコンテンツを拡充することができた。今後は、これらを活用する中で、半田の観光PRのさらなる強化を図ること。また、半田めぐりんMAPのデジタル化やSNS広告等のデジタルを活用したPRの強化等、デジタル社会の進展に即した誘客や回遊の促進を図っていくこと。さらに、感染対策を実施のうえ、可能な限りイベントを開催するとともに、感染状況を踏まえて令和5年秋開催の「第九回はんだ山車まつり」の準備を進めていくこと。					